

## 第4回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

■日時：平成29年6月15日(木) 19:00～21:00

■場所：瑞浪市役所 西分庁舎1階会議室

■出席委員

加藤博之、有賀政光、大野正博、中山征治、大森建生、渡邊勝利、渡邊みゆき  
小林哲也、石原健嗣、橋本孝晴、中條貴子 [敬称略]

欠席委員

なし

■事務局

加藤誠二（まちづくり推進部長）

兼松美昭（市民協働課長）

横井宏之（ ” まちづくり支援係長）

小木曾匡洋（ ” まちづくり支援係主事）

■日程

1. 会長あいさつ
2. 協議事項
  - (1) まちづくり全般に関する取り組み検証提案について
3. まとめ
  - (1) 今年度検証した審議事項について
  - (2) 諮問に対する答申について
4. その他

■議事

事務局 皆さん、こんばんは。定刻となりましたので、ただいまより、第4回瑞浪市市民まちづくり会議を開催します。会議冒頭部分のみ、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。前回会議では集落支援員を同席させ、ワークショップを行っていただきましたが、本日は集落支援員の出席はありません。それでは、加藤会長、ごあいさつをお願いします。

### 【1. 会長あいさつ】

会長 皆さまこんばんは。この会も第4回目を迎え、最後の回となります。本日は総まとめということで、皆さまの活発なご意見をいただきたいと思います。

暗い話となってしまいますが、先般5月の連休に、隣人に刺されて亡くなるという痛ましい事件が起きました。私の住む同じ町内で発生したため、他人事とは思えないのですが、亡くなった被害者の方は32歳と若い方で、加害者も26歳という若者です。こうした自分の殻に閉じこもっている若者がいる一方で、同じ若者のチャレンジ研究室の提案事業が、釜戸地区に採択され、イベントが成功したと聞いております。同じ年代の若者といっても、片方は、自分の殻に閉じこもってしまう、片方は、まちづく

り推進組織に様々なアイデアを提案していただいている。事件の後に、同じ町内会で、自分の殻に閉じこもってしまっている若者も何とか、救い出し、事件を未然に防ぐことができなかつたか、地元で情報を共有し、被害者も加害者もどちらも救うことができなかつたかを話し合いました。こうした中で、まちづくりというものを、当然自治会も関係してくる訳ですが、よりよい安心安全な瑞浪市を作るために、若者の力も借りながらこれからも進めていけるといいなと思います。

事務局 ありがとうございます。本日の会議は、委員11名中、現在のところ10名の出席ということで、委員の過半数の出席があり、本会議の開催要件を満たしていることを報告させていただきます。この後は、条例の規定に従い、会長に議事を進行していただきます。それでは、加藤会長、お願いいたします。

会長 それでは、これより会議を進めてまいります。本日はこのメンバーで最終の会議となります。委員の皆さまには、慎重な審議をお願いしたいと思います。この会議は、会議運営規程により公開の会議となっております。事務局、本日のこの会議の傍聴希望者はありますか。

事務局 ありません。

会長 傍聴希望者なしということで、レジメに従い会議を進めたいと思います。

## 【2. 審議事項】

会長 それでは、2. 協議事項について、(1) 取組推進方針に基づく取組の個別検証について、事務局より説明をお願いします。

事務局 <配布資料の確認>

前回に引き続き、各テーブルで意見交換を行っていただきます。前回各テーブルで進捗状況が異なっていると思われるので、同じメンバーのグループとさせていただきます。前回から間が開いていますので、前回の確認からでも結構ですし、もう一度最初から仕切り直していただいても結構です。

まずは、テーブルリーダーを決めてください。本日の進行役です。アシストは事務局がします。次に、リーダーは自分以外の方で記録者と発表者を決めてください。発表はリーダーの方以外の方で行っていただきます。記録者の方はグループの意見を書き出してください。箇条書きでも結構です。発表者は後ほど、グループでどんな意見が出されたか発表をしてください。

まず、3. 今後に期待をする効果、現状課題解消する方策などについて、引き続き、期待をする効果、課題解消等に対して、どう取り組んでいけば達成されるのか、解消されるのかということ、4. 役割と責務について、として発表してください。前回から新たに思い浮かんだこと、アイデア、考えが変わった等なんでも結構です。1人3分程度で3と4について併せて発表していただきます。各グループ15分程度の時間で全員が発

表をしてください。その後、リーダーはグループの意見を15分程度でまとめてください。時間は併せて30分程度とします。

続いて、取組検証の5から7に移っていただきます。同じ要領で、まずは順番に1人3分程度を目安に発表してください。その後、意見交換し、意見を取りまとめてください。時間は同じく30分程度とします。

この時計で20時10分頃になりましたら最初に決めた発表者の方に発表をしていただきます。うまくまとまらない場合は、「こういう意見がありました」という紹介で結構です。両チーム発表後に、他方のグループへの質問などがあるようでしたらご意見を伺うような形をとりたいと思います。

会長 　　ただいま本日の進め方について、事務局より説明をいただきましたが、ご意見、ご質問等がありますか。

＜意見なし、質問なし＞

会長 　　それでは、グループに分かれて検証を進めます。各グループで進行役と発表者を決めていただき、進行役のもと、意見交換を進めてください。

＜2グループに分かれ、「地域の課題解消及び活性化のための人材発掘をどのようにすすめるのがよいか」について意見交換を実施＞

会長 　　時間になりましたので、各テーブルで出された意見等の発表をお願いします。

＜1グループ発表＞

委員 　　まず、「3. この検証において今後に期待をする効果、現状の課題を解消する方策など」についてですが、幅広い世代に目を向け、親と子で参加できるような企画がほしい、地区の役員が行政から学んだことを住民に発信するといった案が出ました。メインは、子どもをイベント等で巻き込みながら、家族で参加できる仕組みを作ることです。また、実際に行事に参加してみて、意見交流まで行えるとよいと思います。

続いて、「4. 市民、議会及び行政の協働のまちづくりにおける役割と責務」については、先ほどと重複しますが、幅広い世代に目を向け、親と子で参加できるような企画をする、新しいイベントを行うことが行政の役割かと思います。またそれに積極的に参加することが市民の役割になります。議会の役割としては、こうした新しいイベント等に予算付けをする、他にも、まちづくりや区役員等に協力してくれる人を推薦することが挙げられました。

行政の役割について、追加します。子どもが中学校を卒業すると、子どもがらみの地域行事から疎遠になってしまう方が見えます。こうした子育てから離れた世代を地区から吸い上げ、まちづくりに参加してもらえるよう取り組むことが役割になるかと思います。

次に、「5. 考えられる市民の参画方法」について、まずは、各会議（まちづくり、区、

本会議等)の傍聴者を募ることが挙げられました。自分自身ができる(参画する)ことすら知らない市民に対し、いかにPRをしていくかが重要であると思います。

「6. 子ども及び若者の参加への配慮」については、まちづくり行事の際などに、子どもの面倒をまとめて見ることができる場所を作り、親が安心して行事に参加することができる環境を整える、といった意見が出ました。また、学校の参観日など、親が集まる場を利用し、まちづくりの情報発信を行い、参加を促すこともできるかと思えます。

最後に「7. その他」ですが、情報発信や、勧誘を行ったとしても、市民はなかなか参加しにくい現状があるかと思えます。参加に応じて、景品等を配布するといった、活動にメリットを持たせることも一つの案として出ました。

#### < 2 グループ発表 >

委員      こちらのグループは、まず「3. この検証において今後に期待をする効果、現状の課題を解消する方策など」を考えるにあたり、若者に参加の意識を持ってもらうことが必要だが、そこに至らないのはなぜかを考えました。その結果、若者に危機感がないことが原因として挙げられました。意識調査やアンケートにより、若者のニーズを把握していないのではないか、ニーズが把握できれば積極的に参加してくれるのではないか、参加を促す方法があるのではないか、いう点について「6. 子ども及び若者の参加への配慮」、「5. 考えられる市民の参画方法」の順で検討しました。

「6. 子ども及び若者の参加への配慮」について、半ば強制で参加してもらうのも一つではないかという案が出ました。また、メディアを活用し、活動自体が注目されれば、参加を促すことにつながるのではないのでしょうか。

「4. 市民、議会及び行政の協働のまちづくりにおける役割と責務」については、表彰制度を設け、参加を促すのも手ではないかという案が出ました。

先ほど述べたとおり、そこに問題が生じていないと危機感は生まれてこないため、まずは、問題がどこにあるのかをデータで示し、発信することで問題を共有することが行政の役割である、という意見がありました。若者とアダルトの間には温度差があり、アダルトの間にも温度差があり、そこをデータとして発信することで問題に気づくことができ、危機感につながるとまとめました。

会長      ありがとうございます。2つのグループから様々な意見を発表していただきました。特に感想、質問や意見などがあればお願いします。

委員      まちづくり役員について、もっと若い世代を地区から吸い上げることが必要ではないのでしょうか。年齢順や、隣から順番に回ってくるといった仕組みではなく、地区内で役をこなせる適材適所な人選をする必要があると思います。

### 【3. まとめ】

会長      続きまして、3. まとめ、(1)今年度検証した審議事項について、事務局より説明願います。

事務局 <事前送付資料に基づき説明>

会長 続きまして、(2) 諮問に対する答申について、事務局より説明願います。

事務局 <答申のとりまとめについて説明・提案>

会長 ただ今の事務局からの提案については、いかがでしょうか。

委員 <異議なしの声>

会長 それでは、事務局に本日の協議結果も含めて整理をしていただき、私が代表して内容の確認をさせていただきたいと思います。委員の皆さまもご了承ください。  
その他、1年間の感想などをお聴かせ願いたいと思います。

委員 本日を含めこの1年間で、各委員の意識の高さを感じています。ただ、この場の皆さんの意識は高いにしても、いざ他の市民はどうかという点、必ずしもそうではありません。どうすれば市民全体の意識が高まるかという点について、危機感の共有が必要と考えております。特に若い世代において、まちや自分たちが将来、どのようになっていくのかという意識ができていません。今現在、特に不幸せではないので、このままでよいのではと感じていると思われまます。ただし、不幸せになってからでは対応が難しくなるため、きちんと将来の危機を示しておく必要があると考えます。ここでいう危機とは、煽るものではなく、地元のよさを再認識し、今後どのように残していくかという点を示すことです。そのためにも十分リサーチを行うことが重要で、この場で行っている情報共有が市民の問題意識と必ずしも一致しているとは限らないとして、エビデンスを明らかにすることが必要です。このエビデンスに基づいて、ニーズを把握し対策を講じないと、有効な対策とはいえません。各世代、男女別、職業別といったそれぞれが何も求めているのかを把握したうえで、議論していくことが大切であると思います。

ここに意識の高い皆さんが持っている、問題意識や危機感を外部にどのように広めていくかを検討することが今後の課題となるかと思えます。

ありがとうございました。

会長 貴重なご意見をありがとうございました。続いて、4. その他について事務局より何かありますか。

事務局 <特になし>

会長 それでは、今回が1年間の締めくくりということで、加藤まちづくり推進部長より一言いただきたいと思えます。

部長 <加藤まちづくり推進部長あいさつ>

会長 以上をもちまして本日の会議は終了としたいと思います。委員の皆さま、ありがとうございました。

この会議は、協働のまちづくりという面では、非常に重要な会議であったと思います。協働のまちづくりというのは、行政任せではなく、市民一人ひとりが主役であると思っています。委員の皆さまにおかれましては、こうした会議の場で貴重な意見をご発言されたり、他の様々な意見をお聞きになられたりして、皆さまの各地域あるいは、各団体に活かしていただけるよう、併せてまちづくり条例そのものが広く認知されることを願ってあいさつとしたいと思います。

それでは最後に、有賀副会長から閉会のあいさつをいただきたいと思います。

副会長 本日までの4回の会議、お疲れ様でした。最後の会議を委員全員で締めくくることができ、本当に嬉しく思っています。

私は、まちづくりの原点というのは、家族・家庭であると思っています。冒頭の会長あいさつでも述べられましたが、家族の次は隣近所、次に地域、まちと広がっていきます。まずは、帰られたら家族を大切にさせていただいて、朝起きたらお隣さんにあいさつをする、そんなまちづくりも大切ではないかと思えます。

これもちまして、第4回市民まちづくり会議を閉会します。

**【散会】**